

# 第25回京都市地域リハビリテーション交流セミナー

## 報告書

# ありのままの思いを 伝えたい



- 日時 平成24年2月17日（金） 午後2時から4時  
場所 京都市身体障害者リハビリテーションセンター  
主催 京都市地域リハビリテーション協議会  
京都市（身体障害者リハビリテーションセンター）  
後援 社団法人京都府医師会 社団法人京都市身体障害者団体連合会  
公益財団法人京都新聞社会福祉事業団 NHK 京都放送局  
KBS 京都 J.COM 京都みやびじょん 京都市教育委員会  
協力 社会福祉法人共生シンフォニー

## ～はじめに～

京都市地域リハビリテーション交流セミナーは、医療、福祉のみならず、様々な角度から地域におけるリハビリテーションの推進を図るため、市民の皆さんに御参加いただき、障害のあるなしにかかわらず、地域で豊かに生活できる環境づくりについて、考えていただくことを目的として開催しています。昭和62年度に第1回目を開催して以降、今年度で第25回目となります。

今回は、滋賀県大津市にあります多機能型障害福祉サービス事業所まちかどプロジェクトに立ちあげられました演劇集団「まちプロ座」の皆さんに、障害のある方による演劇、手話歌コンサートなどに御出演いただきました。出演者だけでなく、照明や音響などのスタッフの皆さん、お忙しい中、御協力いただき厚く御礼申し上げます。

当日は、朱雀第七小学校4年生の皆さんも含め、約150名の方に御参加いただきました。皆さんからは、御好評をいただき、障害者にとってやさしいまち、相互に支え合い安心して暮らせるまちにするために何が必要なのか、考えていただく機会を提供することができました。

今後も、地域リハビリテーション推進事業の取組への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域リハビリテーション推進担当

---

## 目 次

プロフィール	・・・・・・・・・・	1
開会挨拶	・・・・・・・・・・	3
劇「ひまわりの詩」	・・・・・・・・・・	5
車いす漫才「電々クルクル」による漫才	・・・・・・・・・・	6
手話歌コンサート／会場との交流	・・・・・・・・・・	6
閉会挨拶	・・・・・・・・・・	10
アンケートから	・・・・・・・・・・	11
小学生感想文から	・・・・・・・・・・	12

## ～まちかどプロジェクト・プロフィール～

### ❁ 「まちかどプロジェクト」の可能性

「まちかどプロジェクト」は、滋賀県大津市の社会福祉法人共生シンフォニーに属する多機能型障害福祉サービス事業所です。

ユニークな名前に劣らぬユニークな活動を法人化以前から継続・発展させています。

人から与えられた仕事ではなく、障害者ならではの「個性」を活かした自己実現のための活動を自分に合ったペースで、をモットーに活動をしています。その中の講師派遣、交流事業から公演スタイルを様々に試行。寸劇等を取り入れるなど進化させていき、2003年に劇団「まちプロ座」を立ち上げるに至りました。



### ❁ 「まちプロ座」とは

言葉で話をするだけでなく、自分の思いを表現し、伝えるためのより良い方法を探していた障害者たちがたどり着いた演劇、ダンス、手話歌……。障害者メンバーが中心となり、役者や裏方として参加する社会人や学生ボランティアとともに2003年に旗揚げしました。

いちばん大切なことは、障害者が自分の「思い」を、演劇を通じて伝えることだと思っています。役者と観客が生身でぶつかり合って、年齢や性別、もちろん障害問わず、一緒に感動を分かち合えること。そして演劇を観て終わるだけでなく、人と人がつながっていきけるような演劇を目指しています。

### ✿座長から一言

障害というハンディがあると、街ですれ違ってなんとなく避けられがち。ましてや、その思いなどなかなか伝わらず……。障害があってもなくても、舞台上に立てば一人の役者。セリフに込めて、人と人として出会えると気づきました。いつか、どこかの舞台上で、いろんなアナタと出会いたい。それぞれの人生や心の内を、ありのまま伝えられる。そんな気持ちで演劇を続けています。

### ✿手話パフォーマー“恋鉄”

本名 小石哲也。1982年生まれの29歳。小学校・中学校と公立学校の障害児学級で学び、滋賀県立三雲養護学校高等部卒業。花園大学文学部史学科に進学し、4年で卒業。2005年5月から、まちかどプロジェクトのメンバーになる。大学時代に勉強した手話で、歌詞を手話で表す手話歌が得意。



(司会)

お待たせいたしました。ただいまから第25回京都市地域リハビリテーション交流セミナーを開催いたします。

本日はお寒い中、御来場いただきありがとうございます。

私は、本日司会を務めさせていただきます身体障害者リハビリテーションセンターの中田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この地域リハビリテーション交流セミナーは、京都市と、京都市地域リハビリテーション協議会との共催で、毎年開催しております。まず、主催者を代表いたしまして京都市地域リハビリテーション協議会副会長の加藤博史から御挨拶申し上げます。

## 開会挨拶

京都市地域リハビリテーション協議会副会長

加藤 博史

皆さん、こんにちは。

今日は、寒い日になりましたけれども、たくさんの方にお集まりいただきました。心から御礼申し上げたいと思います。

京都市地域リハビリテーション協議会が共催しております、この地域リハビリテーション交流セミナーでございますが、障害ということを皆さんと一緒に考えていき、そして、地域の中で障害のある方、ない方共々、ともに生きていけることを進めていこうと開催して参りました。第25回になります。

障害というのは、その人の全部でははかれません。その人のほんの一部ですよ。

たとえば、私は近眼であります。眼鏡をかけています。眼鏡という補装具をかけて、不自由なく字が読めたり、物を見られたりします。障害というのは、その人全体を表すものではありません。そして、障害は、国際的な基準では、その人の中にあるよりも周りの環境や、あるいは周りの人の態度にあるのではないかということが言われています。つまり、環境をどんどんよくしていき、それから周りの人たちの理解をどんどん高めていくと、障害は、不自由は、どんどんなくなっていくということです。リハビリテーションも進んで参ります。これを皆さんとともにもっともっと進めていきたいものであります。

今日は「ありのままの思いを伝えたい」ということで、お手元のパンフレットにあるように、まちかどプロジェクトのまちプロ一座の方々にお芝居をお願いしております。皆さん方と一緒に芝居を観させていただき、そして障害ということへの理解を、人が誇りをもって、当たり前前に生きていける、そういう社会を作っていくという視点でもって、しっかり学んでいきたいなと思います。

どうぞ最後まで、皆さん方、一緒に学び合って参りましょう。

これをもちまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。



(司会)

それでは、「ありのままの思いを伝えたい」というテーマで始めさせていただきます。本日は、お配りしていますプログラムのとおり、演劇「ひまわりの詩」を御覧いただいた後、休憩をはさみまして、手話歌コンサート、ここでは、会場の皆さんとの交流する場も設けております。遅くとも4時には終了する予定ですので、皆さんよろしくお願ひします。

出演していただきますのは、まちかどプロジェクトの皆さんです。

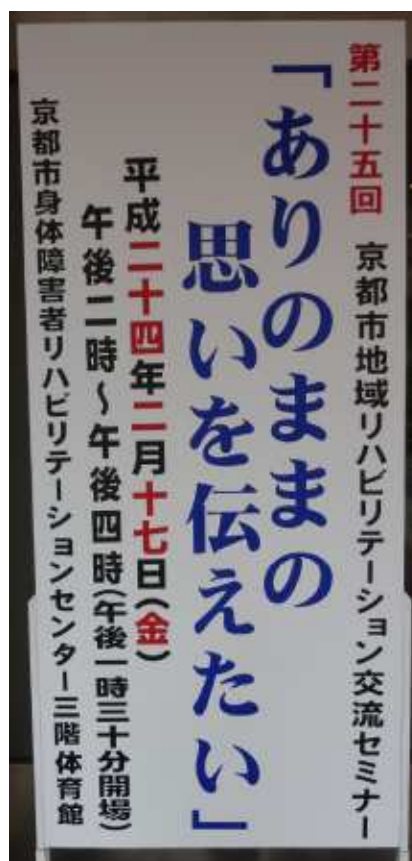
「まちかどプロジェクト」は、滋賀県大津市にある多機能型障害福祉サービスの事業所です。人から与えられた仕事ではなく、障害者ならではの「個性」を生かした自己実現のための活動を、自分のペースで、をモットーにユニークな活動を展開しておられます。その中で生まれたのが、本日出演していただきます演劇集団「まちプロ座」です。

言葉で話すだけでなく、自分の思いを表現し伝えるためのより良い方法を探してたどり着いたのが、演劇、ダンス、手話歌などです。障害者メンバーが中心となり、役者や裏方として参加する社会人や学生ボランティアの皆さんとともに結成されました。

障害者が自分たちの思いを演劇を通じて伝えることが一番大切なこと。そして、役者と観客の皆さんが生身でぶつかりあって、年齢や性別、障害のあるなしを問わず一緒に感動を分かち合い、人と人とがつながっていけるような演劇を目指しておられます。

それでは、早速始めていただきましょう。

まずは、障害のある方による演劇「ひまわりの詩」です。まちかどプロジェクトの皆さん、よろしくお願ひします。



## 演劇「ひまわりの詩」

この演劇は、原作、出演者はもちろん、音響、照明等のスタッフも「まちプロ一座」の皆さんによるものです。当日は、朝から大道具、小道具が運び込まれ、体育館というフラットなスペースに舞台袖の設置や照明の位置など確認しながら、舞台を作り上げていきます。手作り感満載（！）です。そこへ出演者の皆さんが続々と到着。開場直前までリハーサルが続きました。

車いすに乗った出演者が多く、ステージにはあえて段差を設けませんでした。会場の皆さんは少し見えにくかったかもしれませんが、その分、会場との一体感が味わえたことと思います。

内容は、障害者の結婚問題。あらすじは次のとおりです。小学生の皆さんにとっては、少し難しいと思われるテーマでしたが、一生懸命観ておられました。

### ～あらすじ～

昇は車いす漫才師。ある日、路上ライブをしているところを通りがかった陽代に声をかけられる。陽代もまた外出時にはヘルパー同行を必要とする障害者。

やがて二人は愛し合い、結婚することを意識し、お互いの両親に伝えることに。

昇の両親は、21歳の昇をいつまでも子供扱いしているが、彼女ができたことを一旦歓迎する。しかし、彼女が昇より重い障害があり、さらに結婚を考えていることを聞き、強力に反対する。

「自分のこともろくにできないのに、車いすの障害者同士で結婚なんて無理」

「子供が生まれて、両親が障害者なんてかわいそう」・・・。

昇は反発し、「障害を持っていることが不幸なんか！僕の思うがままに生きてやる」と飛び出していく。

一方、陽代の両親も「友だちならいいが、結婚となれば話は別」と反対する。実は、陽代の父も中途失明者であり、そのため夫婦二人で苦勞してきたのだった。「障害者の結婚は甘いもんじゃない。同じ苦勞をさせたくない。おまえのことは、死ぬまで私たちが面倒をみてやると決めている。」と。

祝福されるとは思っていなかったけれど、現実はこちらにも壁がある。しかし、駆け落ちを覚悟するほど、二人の思いは強くなっていく。一緒に生きていくと決めたからには、認めてもらえるまで、がんばろうと誓い合う。



そんな中、二人は、障害者同士で結婚している先輩片桐に相談する。片桐は、二人の生活の具体的なイメージを伝えていくことをアドバイス。「障害者でも地域で普通に暮らしていけるんや」ということを社会に示すことが、未来の障害者のため、社会全体のためにもなると励ます。作業所の仲間たちの応援も受け、決意を新たにする。

ふたたび、説得を始める二人。結婚する意志が固いことだけでなく、生活面での介護、仕事、経済的なことも、力を合わせてやっていくことを真剣に伝える二人を見て、陽代の両親は、ようやく賛成し、励ます。しかし、昇の両親、特に母親の賛成は得られず、昇はとうとう家を飛び出し、一人暮らしを始めるが、いつかはわかってもらいたいと思いは消えない。

一年後、病院の手術室の前。陽代の出産を今か今かと待っているとき、昇の両親がやってくる。陽代の両親から知らせをもらい、かけつけてきたのだ。母親は、家出して電話一本よこさない息子に意地を張りつつも、心配してきた思いを打ち明け、二人を祝福するのだった。やがて、元気な産声が・・・。

場面変わって、二人の新居。ヘルパーの助けを借りながら、赤ちゃん“ひまわり”の世話をしているところへ、二人の両親たちをはじめ、先輩片桐や作業所の仲間が祝福に訪れる。

本当に結婚できてよかったと幸せをかみしめる二人。

ひまわりは、陽のあたる場所で生きていく。太陽のように明るく輝くひまわりのように、この世の中を照らしていくと決意するのだった。

### ～ちょっとブレイク～

交流セミナーの休憩時間を利用して登場したのは、車いす漫才師「電マクルクル」の御兩人による漫才！！



### ～手話歌コンサート～

手話パフォーマー“恋鉄”さんによる手話歌。披露されたのは、「ランナー」と「ハナミズキ」。リズムに乗って、抑揚をつけられた「手話歌」は、まさに情熱的。会場の皆さんも楽しい雰囲気になりました。



次は、車いすシンガーソングライター森島 恵さんが登場。森島さんは、CDも出されているとのこと。オリジナル曲「走れ若さ」（次ページの歌詞参照）が披露されました。

また、「世界に一つだけの花」のサビの部分の手話歌指導があり、会場の皆さんにも挑戦していただき、大合唱となりました。



## 走れ若さ

作詞 森島恵 補詞 河合賢治 作曲編曲 河合賢治

はしれるって うれしいこと わかいて 素晴らしい  
はしれるって うきうきする いきるって 素晴らしい  
らーん どこまでも くーもーをおいかけ  
らーん どこまでも そーらーにむかって  
わかいときにしか あじわえない とびっきりに かつぱつに  
はしる はしる どこまでも かせをきってはしれ  
はしれるって うれしいこと わかいて 素晴らしい  
はしれるって うきうきする いきるって 素晴らしい  
らーん どこまでも くーもーをおいかけ  
らーん どこまでも そーらーにむかって  
おはなばたけの まんなかーを とびっきりに たのしんで  
はしる はしる どこまでも ゆめをおいかけ えー えーえー いえー  
うみにむかって はしりたーいな なみといっしょに あそぼうー  
はしる はしる どこまでも かせをきってはしれ  
ワンツウスリー はしれ はしれ はしれ



## 世界に一つだけの花

ナンバーワンにならなくてもいい  
もともと特別なオンリーワン

花屋の店先に並んだ いろんな花を見ていた  
人それぞれ好みはあるけど どれもみんなきれいだね  
この中でだれが一番だなんて 争うこともしないで  
バケツの中誇らしげに しゃんと胸をはっている

それなのに僕ら人間は どうしてこうも比べたがる？  
ひとりひとり違うのにその中で 一番になりたがる？

そうさ僕らは 世界に一つだけの花  
ひとりひとり違う種を持つ  
花を咲かせることだけに一生懸命になればいい

} この部分を  
手話でやってみよう  
(次ページ参照)

困ったように笑いながら ずっと迷ってる人がいる  
頑張っ咲いた花はどれも きれいだから仕方ないね  
やっと店から出てきた その人がかかえていた  
色とりどりの花束と うれしそうな横顔

名前も知らなかったけれど あの日僕に笑顔をくれた  
だれも気づかないような場所で 咲いてた花のように

そうさ僕らは 世界に一つだけの花  
ひとりひとり違う種を持つ  
その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい

小さい花や大きな花 一つとして同じものはないから  
ナンバーワンにならなくてもいい  
もともと特別なオンリーワン

「世界に一つだけの花」を手話で挑戦してみよう！！



## 閉会挨拶

京都市身体障害者リハビリテーションセンター次長  
京都市地域リハビリテーション協議会副会長  
池田 健

皆さん、今日は、長時間にわたりまして、最後までお付き合いいただきまして、ありがとうございました。小学生の皆さんも、ありがとう。

今日は、「ありのままの思いを伝えたい」ということで、まちかどプロジェクトの皆さんに素晴らしいパフォーマンスを見せていただきました。寒い一日ではありますが、何か心の中が温かくなるようなひと時を、皆さんとともに過ごせたかなあと考えております。

どうでしょうか。演劇を観ていただきましたが、障害のある方も、当たり前前に結婚したい、ということはあるわけですね。その実現のために、一人一人がどうするのか。皆さん、今日の演劇を通じてお考えいただいたり、御覧になったことを、御家庭や、学校、職場、それから地域の中で、語り合ってください、障害者の皆さんにとってもやさしいまちづくりができるように皆さんとともにやっていきたいと思っております。

25回目を迎えました交流セミナーですが、多くの方に御参加いただいて、毎回盛大に開催させていただいております。主催者といたしましても、うれしい限りでございます。こういった取組をこれからもどんどん続けて参りたいと思っております。

大変寒い一日ではありましたが、最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。

これで閉会の御挨拶とさせていただきます。

今度ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(司会)

以上をもちまして第25回京都市地域リハビリテーション交流セミナーを終了いたします。

なお、皆様に受付でアンケート用紙をお渡ししております。今後の企画等の参考にさせていただきますので、御記入のうえお帰りの際に受付にあります回収箱に入れていただきますよう御協力をお願いいたします。

今日は、長時間どうもありがとうございました。お忘れ物などございませんよう、お気をつけてお帰りください。

## ～アンケートから～

当日御参加いただきました市民の皆さんにアンケートの御記入をお願いし、感想や御意見を伺いましたので、抜粋して掲載します。

- 貴重な体験ができました。(20歳代, 男性)
- 家族の温かさが伝わってきました。(20歳代, 男性)
- 楽しかったです。手話を忘れないようにします。(60歳代, 女性)
- 2人の真の気持ちが通じ合えば、必ず周囲の人々に支えられることがわかる演劇でした。構成がうまかった。(60歳代, 男性)
- 手話の歌とか、ふつうにおもしろかったです。楽しめました。(20歳代, 男性)
- 小学生もたくさん来ていたけれど、皆しっかり観ていた。内容もけっこうシリアスなテーマだったけれど、わかりやすく説明されていたし、楽しく観ることができました。手話も皆できてよかったです。マイクがちょっと聞こえにくかったのですが、しっかりした機材にすればわかりやすくなると思います。(20歳代, 男性)
- 小学生の方が大勢こられていました。今日の集いをただ観ているだけでなく、これからの生活に取り込んでほしいと思います。(60歳代, 女性)
- ノーマライズの軸となる期待感を持たせてもらえる。鑑賞者の負担にならない限りで結構ですが、パフォーマンスの設営にもう少し配慮した方がよい(たとえば、暗がりになった舞台の背後のカーテンの隙間を埋めきる等)。また、今後の希望テーマとして、一般参加者からのイベント募集も試みるとよいと思う。(40歳代, 男性)
- よくセリフを覚えられたと思います。また伺いたいと思います。(70歳代, 女性)
- 皆さんの明るさに感動しました。声もよく出ていたと思います。今日はありがとうございました。(70歳代, 女性)
- 一生懸命に演じられたのに感動しました。力をもらったように思います。(70歳代, 男性)
- 今後もやってほしい。(60歳代, 男性)
- 半分以上は車いすの人だった。身体障害者でも、こんなことができるんやと思った。(30歳代, 男性)

## ～小学生の皆さんの感想文から～

当日は、朱雀第七小学校4年生の皆さんも参加していただきました。総合学習において、障害者について学習をされる機会もあるということで、熱心に観ておられました。また、手話歌で交流した時は、「さすが小学生、覚えるのが早い」とまちプロ一座の皆さんも感心しておられました。

以下、寄せられた感想文の中から、掲載させていただきます。(原文のまま)

・わたしは、しょうがい者の人が行っているえんげきや手話を見ました。

えんげきは、一人一人たくさんのセリフがあるのに、みんなセリフが完ぺきだったのでびっくりしました。

手話は、最後に「世界に一つだけの花」を教えてくださいました。手話はしゃべるだけでなく歌うこともできることが分かりました。

しょうがい者の人が、こんなに一生けんめいなを見て、すばらしいと思いました。

・わたしが一番おもしろかったことは、手話の歌コンサートです。はなみずきやランナーを手話で見るのは、はじめてなのでごくおもしろかったです。その後、世界に一つだけの花の手話を教えてもらってサビのふぶんはもうかんぺきにおぼえられました。家にかえってお母さんに見せると、「すごいやん。かんぺきにおぼえられてるやん。」とってくれました。また手話で歌を歌ってみたいです。

・私は、リハビリセンターに行って、一番心にのこったのは、みんなでやった手話です。世界に一つだけの花のサビのところだけだけど覚えられてとてもうれしかったし楽しかったです。しょうがい患者の人も一生けん命がんばっていてとてもすばらしいなと思いました。世の中にはたくさんのしょうがい者がいるということが分かりました。楽しかったです。

・わたしは、2月17日リハビリセンター見学に行きました。リハビリセンターでは、お笑いやえんげきなどをやっていました。わたしが一番楽しかったのは、手話歌コンサートです。手話歌コンサートでは、世界に一つだけの花の手話をおしえてもらいました。お笑いもとてもおもしろかったし、えんげきもぜんぜんセリフをまちがえたりしなかったのがすごいなあと思いました。リハビリセンターでは、いろいろ学んだと思います。

・金曜日に行ったリハビリセンターでの公えん会では、約2時間、手話パフォーマンスやげきを見ました。初めはげきでした。しょうがい者どうしが結こんするという話でした。この話では、しょうがい者どうしが結こんするのはすごく親に反対されたり、大変さが分かりました。

手話パフォーマンスでは、手話で歌を歌っていました。手話は動作を覚えるのはすごくむずか

しいということが分かりました。

・ぼくは金曜日にリハビリセンターへ見学に行きました。初めは、「どんな人がいるのかなぁ。」と思っていました。リハビリセンターに入っすぐ、まん才をやってもらいました。しょう害者なのにまん才ができてすごいなぁと思いました。ぼくはしょう害者の方たちを見て、しょう害があるけど前向きに、人生を歩んでいっているのに感動しました。ぼくもみなさんのように、がんばっていきたいなぁと思いました。

・5、6時間目リハビリセンターに行って、えんげきや、手話歌コンサートを見たりしました。えんげきを見て、障害がある人とふつうの人の生活は、ほとんど同じで、障害があるからダメとかじゃなくて、ふつうの人と同じことが分かりました。コンサートでは、前で手話をやってた人はすごいと思いました。手話を教えてくださってうれしかったです。

・2月17日に四年生全員でリハビリセンター見学に行きました。

えんげきをやると聞いてできるのかなと思ったけど、じっさいには、すごく一生けん命でお話も分かりました。

手話で世界に一つだけの花をやって楽しく手話にふれることができたし、練習もしてみようと思いました。

今日はたくさんの事にふれられてよかったです。

・わたしは全体的にしょうがい者の人達がんばってげきやまんざいをしていてすごいと思いました。手話で「世界に一つだけの花」をした時、手話がむずかしかったです。まん中で手話をしていたお兄さんがとってもがんばって必死でやっていて熱い気持ちになりました。リハビリセンターは愛されているんだなぁと思いました。

・わたしは、手話歌コンサートが一番よかったです。いままで手話を見たことがなかったので、すごいと思いました。みんなで手話をやるときむずかしかったので、手話をおぼえるのは大変だなと思いました。ほかにも、えんげきのひまわりの詩もよかったです。どれもやっている人の思いがつまっていていいと思いました。

・げき「ひまわりの詩」を見ておもしろい所感動する所などいろいろあっておもしろいげきでした。そしてとっても勉強になりました。

手話歌コンサートもとってもすてきでみなさんがやさしく手話を教えてくださり、心がほっとしました。恋鉄さんもすごい！

最初から最後まで見てずっと思っていたんだけど障害者の方が一生けんめいげき、手話、歌をやっていてすごいなぁと思いました。

第25回京都市地域リハビリテーション交流セミナー報告書  
平成24年3月発行

編集発行 京都市身体障害者リハビリテーションセンター  
京都市地域リハビリテーション協議会  
住 所 〒604-8854  
京都市中京区壬生仙念町30  
電 話 (075) 823-1666